

EXHIBIT No. 3064

(40)

Def. Doc. #1896

C.L.O 第 號

(S.D.M 第四〇號)

一九四五年十二月六日

帝國第二復員省大臣發
聯合軍最高司令部宛

件名 印度洋ニ於ケル商船擊沈ニ關スル件回答

一、一九四五年十一月十九日附貴翰ニ關スル回答左ノ如シ。

印度洋ニ於ケル商船撃沈ニ關スル件回答

一九四五年十一月十九日附貴通牒ニヨリ要求セラレタル主題ノ件ニ關スル事件ニ關シテハ、ノルウエー汽船スコチア號ニ對スルモノヲ除クノ外各政府ヨリ夫々抗議提出セラレタリ。抗議ヲ受クル毎ニ當局ハ諸種報告、電報作戰地區ヨリ歸來セルモノノ言等々ヲ綜合シ調査ヲナシタルモ一トシテ抗議ニ該ルモノナク此ノ旨關係各政府ニ通報セリ。

當時印度洋作戰ニ從事セル日本潜水艦ハ大半失ハレ生殘乗組員少ナク且關係調査、報告、電報等ガ全テ燒却セラレタルタメ現在ニ於テハ調査ノ再開甚ダ困難ニシテ正確ナル結果ヲ期シ難シ

然レドモ當方ハ生殘乗組員及當時潜水艦戰ニ重要ナル位置ヲ占メタルモノノ大部分ニ對スル査問ニ基キ極力調査ヲ行ヒソノ結果ヲ左ニ記載ス

一、關係潜水艦名並ニソノ行動概要

日本帝國政府ニ提出セラレタル抗議中ニ擧ゲラレタル商船撃沈ニ關係アル期間即チ一九四三年末ヨリ一九四四年八月ニ至ル間印度洋ニ於テ行動シタル日本帝國潜水艦左ノ如シ

イ八號。イ二六號。イ二七號。イ三七號。イ一六二號。イ一六五號。
 イ一六六號。ロー一〇號。ロー一一號。……

計九隻

右潜水艦ノ任務ハ交通網ノ破壊、作戰要地ノ偵察及獨乙潜水艦ニ對スル補給ニアリタルモ重點ハマルヂイブ諸島、チャゴス諸島、ヂエゴ、スアレズ、モンバサ、アデン灣、オーストラリヤ北西部等ノ要地偵察ニ置カレタリ。當偵察任務遂行ノタメ右等潜水艦ハ印度洋全面ニ亘ツテ分散シテ作戰シアリタリ。イ一六二號艇ヲ除ク八隻ハ全テ印度洋ニ於テ或ハ之ニ續ク作戰ノ間ニ他ノ何レカノ方面ニ於テ行方不明トナリタル旨報告セラレ、且右イ一六二號スラ其ノ本件關係作戰間艇長タリシモノハ一九四四年七月南太平洋ニ於ケル戦闘間ニ戦死シタリ。

斯ル狀況ノ下ニ於テ其ノ正確ハ保シ難キモ右等各潜水艦ノ行動ヲ生殘乗組員ノ記憶ニ基キ附表第一及附表海圖ニ掲ゲタリ。

右ニ關聯シ同期間中多數ノ獨乙潜水艦ガ印度洋全面ニ於テ吾ガ潜水艦ノ活動ニ並行シテ貿易破壊ニ從事シタル事實ハ特ニ附記セラレザルベカラズ。且獨乙作戰區域及吾ガ作戰區域ノ境界線ハ兩軍時期ノ區分ト共ニ獨乙海軍ノ熱心ナル要望ニ依リ一九四三年夏以降廢止セラレタリ。

ニ 汽船撃沈ノ實ヲ負フベキ潜水艦ニ關スル判斷。

本件ニ關係スル被撃沈船舶ノ船舶名ヲ思ヒ出シ得ルモノナキ爲小官等ハ前節ニ説明セラレタル各日本潜水艦ノ行動ト各國政府ヨリノ抗議書ニ擧ゲラレタル犠牲船舶ノ撃沈ノ場所及時日ノ比較ヲ行フノ外ナカリキ。右比較綜合表ハ附表第二ニ掲ゲラル。然レドモ本表ニ明ナル如ク小官等ハイ二七號、イ一六六號、ロー一〇號ヲ除キ照會ノ撃沈ニ關スル疑アル潜水艦ニ該當スルモノヲ發見スルコト能ハザリキ。右三潜水艦ハソノ乗組員全員ト共ニ印度作戦ヨリ遂ニ歸還セズ依ツテ彼等ガ撃沈ノ或ルモノニ責任アリトスルモ小官等ニハ最早之レ以上ノ調査ヲ繼續スベキ手段全ク無キモノナリ。右様ノ事情ナレバ遺憾乍ラ小官等ハ撃沈ニ責任アル潜水艦名ヲ茲ニ明示スル能ハザル次第ナリ。

スコチア號ニ關シテハ本ノルウエー船舶ノ撃沈ノ場所及時日ニ關スル詳報ヲ可及的速カニ小官等ニ與ヘラレタシ。右ノ時日ヲ缺ク時ハ本件ノ證明ニ關シ小官等ハ何等ノ端緒ヲモ得ザルヲ以テナリ。

潜水艦作戦要圖

附表第一

艦名		作戦期間	作戦地域	撃沈日時	撃沈ノ数及場所	摘要
イ27號	自一九四三年十月下旬 至一九四三年十二月下旬	中部及西部印度洋	一九四三年十二月、十一月ノ間 一九四四年二月以降戦果不明	撃沈五隻 於アデン湾 アラビヤ湾	一九四四年五月初旬日本本土ヨリビナンニ向ケ進航中	
イ26號	自一九四三年十二月二十日 至一九四四年二月二十日	北西印度洋	一九四三年十二月二十九日 一九四三年十二月三十一日 一九四四年一月二日	撃沈 北緯一九度〇分 東經三九度〇分 北緯二度〇分 東經六〇度〇分 計三隻	一九四三年十二月初旬日本本土ヨリビナンニ向ケ進航中 一九四四年五月初メ修理ノタメ本土ニ歸遠	
イ3號	自一九四四年三月二十日 至一九四四年五月五日	中部及南部印度洋	一九四四年三月三十日	撃沈一 南緯一二度〇分 東經八一度〇分	一九四四年三月初旬日本本土ヨリビナンニ向ケ進航中	

イ 165 號	イ 162 號	イ 37 號
自一九四四年 五月三十一日 至同七月五日	自一九四四年 三月三十一日 至同五月四日	自一九四四年 一月二日 至同二月二十二日
自一九四三年 十月二十四日 至同十二月二十七日	自一九四四年 二月二十日 至同三月二十五日	自一九四四年 二月二十日 至同一月二十日
自一九四三年 十月五日 至同十一月十日	自一九四四年 二月二十日 至同一月二十日	自一九四四年 三月十日 至同四月二十七日
北西 オーストラリヤ	中部印度洋	北西 オーストラリヤ
同	同	中部印度洋
同	同	南西印度洋
一九四四年 一月十六日	一九四四年 三月五日	一九四三年 十月二十三日
一九四四年 十月十六日	一九四三年 十月十六日	一九四三年 十月十六日
北緯一〇度〇分 東經八三度〇分	北緯一〇度〇分 東經七七度〇分	北緯九度〇分 東經七四度〇分
北緯一〇度〇分 東經八三度〇分	北緯一〇度〇分 東經七七度〇分	北緯九度〇分 東經七四度〇分
北緯一〇度〇分 東經七七度〇分	北緯九度〇分 東經七四度〇分	北緯十六度〇分 東經四〇度〇分
艦体損傷ノタメ屢々修理ヲ 要ス。一九四四年七月二十 四日ヨリ ニユーキニア地 區ニ於テ作戦。	艦体損傷ノタメ屢々修理ヲ 要ス。一九四四年七月二十 四日ヨリ ニユーキニア地 區ニ於テ作戦。	修理ノタメ基地ニ歸リ 一九四四年八月歸遠
艦体損傷ノタメ屢々修理ヲ 要ス。一九四四年七月二十 四日ヨリ ニユーキニア地 區ニ於テ作戦。	艦体損傷ノタメ屢々修理ヲ 要ス。一九四四年七月二十 四日ヨリ ニユーキニア地 區ニ於テ作戦。	修理ノタメ基地ニ歸リ 一九四四年八月歸遠
艦体損傷ノタメ屢々修理ヲ 要ス。一九四四年七月二十 四日ヨリ ニユーキニア地 區ニ於テ作戦。	艦体損傷ノタメ屢々修理ヲ 要ス。一九四四年七月二十 四日ヨリ ニユーキニア地 區ニ於テ作戦。	修理ノタメ基地ニ歸リ 一九四四年八月歸遠

口 110 號			イ 166 號								
自一九四四年二月初旬	自一九四四年一月初旬	自一九四三年十二月初旬	自一九四四年八月下旬	自一九四四年六月初旬	自一九四四年五月初旬	自一九四四年三月中旬	自一九四四年二月中旬	自一九四三年十二月十日	自一九四三年十一月十日	自一九四三年十月十日	
同	同	ベンガル灣	同	同		同	同	同	同	中部印度洋	
一九四三年十二月 一九四四年一月 以降ノ戰果 不明			戰果 不明								
擧沈一 於ベンガル灣											
沈沒確認。			一九四三年十二月初旬本國ヨリ ピナンニ進航中。戰鬪中行衛不 明ト報告セラレ一九四四年三月					ピナン出航後行衛不明沈沒確認			

口
111
號

自一九四三年 十二月初旬 至一九四三年 十二月末	自一九四四年 二月初旬 至一九四四年 二月二十日	自一九四四年 一月十日 至同 一月二十日	自一九四三年 十二月初旬 至一九四三年 十二月末
ベ ン ガ ル 湾	同	同	同
一九四三年 十二月二十四日	一九四四年 二月	一九四四年 三月	
南 東 セ イ ロ ン	撃 沈 一 於 ベ ン ガ ル 湾	撃 沈 一 於 ベ ン ガ ル 湾	
一九四三年中頃日本本土ヨリ ピナンニ向ケ進航中 一九四四年三月末歸遠。			

附表第二。

汽船撃沈ノ時日及場所ト日本潜水艦ノ行動比較表

被撃沈船	日時	場所	イ8號	イ26號	イ27號	イ37號	イ162號
デイジー、モラー	一九四三年、十二月十三日 北緯一八度二一分 東經八二度一三分		日本本土	ビナン。一九四三年十二月初メ本國ヨリビナンニ到着。	アラビヤ海ニ於テ行動中ナルモデイジー、モラー撃沈地點ニ全ク離隔シアリ。	ビナン	ビナン
ブリチツシュ、シヴァルリー	一九四四年、二月二十二日 南緯零度五六分 東經六八度〇分		日本本土	ビナン	中部及西部印度洋ニ於テ行動中ナルモ詳細不明	シンガポール	一九四四年二月二十日ビナン出航セイロン南西ニ進路ヲ取レルモブリチツシュ、シヴァルリー撃沈地點ニハ甚シク離隔シアリ
サトレー	一九四四年、二月二十六日 南緯八度〇分 東經七〇度〇分		日本本土	ビナン	同上	シンガポール	セイロン南西部ニ於テ行動中サトレー撃沈場所ニ甚シク離隔ス

判定	ロ 號	ロ 號	イ 號	イ 號
<p>ロー一〇號が撃沈場所ニアリタ リト思料セラルルモ乗組員全員 死亡ノタメソレ以上ノ調査不可 能ナリ他潜水艦ハ本件ニ關シ疑 フノ余地ナシ</p>	<p>ベンガル湾北部ニ於テ行動中ナ ルモ當時一船モ撃沈セズ</p>	<p>一九四三年十二月ベンガル湾ニ 於テ行動中一船ヲ撃沈セルモ時 日及ビ場所符合セズ</p>	<p>一九四三年十二月初メビナン出 航セイロン南西部ヘノ途次ニア ルモテイジー、モラー撃沈場所 ニ甚シク離隔ス</p>	<p>シンガポール</p>
<p>イニ七號及イー六六號ガブリチ ツシユ、シヴァルリ一撃沈時行 動シアリト思料セラルルモソレ 以上ノ調査ハ乗組員全員死亡ノ タメ不可能ナリ</p>	<p>ビナン</p>	<p>ベンガル湾ニ於テ行動中ナルモ 同船撃沈場所ト甚シク離隔ス</p>	<p>中部印度洋ニ於テ行動中ナルモ 詳細不明</p>	<p>シンガポール</p>
<p>イニ七號ガサトレー撃沈時行動 シアリタリト思料セラルルモ乗 組員ノ死亡ノタメソレ以上ノ調 査不可能ナリ。他ノ潜水艦ニハ 關係ナシ</p>	<p>ビナン</p>	<p>同 上</p>	<p>一九四四年二月晩期ビナンニ歸 還。サトレー撃沈場所ニ甚シク 離隔ス</p>	<p>シンガポール</p>

イ 165 號	イ 162 號	イ 37 號	イ 27 號	イ 26 號	イ 8 號	時 日 場 所	被 撃 沈 船
シンガポール	セイロン南西方ニ於テ行動中ナルモアスコット撃沈地點ヨリ甚シク離隔ス	ピナン	中部及西部印度洋ニ於テ行動中詳細不明	ピナン	日本本土	一九四四年二月二十九日 南緯三度一〇分 東經六二度一〇分	アスコット
シンガポール	セイロン南東ヲ經テピナンニ向ケ航行中ナリシモ一船モ撃沈セズ	同 上	同 上	ピナン	ピナン。一九四四年三月初メ本國ヨリピナンニ到着	一九四四年三月十三日 北緯二度一四分 東經七八度二五分	ナンシー、モラー
シンガポール	ピナン	同 上	同 上	セイロン南西方ニ行動中。偵察ノタメ、マルヂイヴ諸島ニ進路ヲ取ル。コノ地區ニテ一船モ撃沈セズ	セイロン、オーストラリア中間ニ於テ行動中。チザラツク撃沈箇所ヨリ極端ニ離隔ス	一九四四年三月二十八日 セイロン南方六〇〇哩	チザラツク
シンガポール	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上

判定	ロ 111 號	ロ 110 號	イ 166 號
ナシ 査不可能ナリ。他潜水艦ハ關係 組員全員死亡ノ爲ソレ以上ノ調 シアリタリト思料セラルルモ乗 アスコット撃沈時イ27號ガ行動	ビ ナ ン	ベ ン ガ ル 海 ニ 於 テ 行 動 中 ナ ル モ 同 船 撃 沈 地 點 ヨ リ 甚 シ ク 離 隔 シ ア リ。	一 九 四 四 年 二 月 後 半 ビ ナ ン ニ 歸 航 中。 而 レ ド モ ア ス コ ツ ト 撃 沈 地 點 ヨ リ 甚 シ ク 離 隔 ス
ナ リ 亡 ノ タ メ ソ レ 以 上 ノ 調 査 不 可 能 ナ リ	ナ ン シ ー 、 モ ラー 撃 沈 時 イ 一 六 六 號 、 イ ニ 七 號 行 動 中 ナ ル モ ノ ト 思 料 セ ラ ル ル モ 乗 組 員 全 員 死 亡 ノ タ メ ソ レ 以 上 ノ 調 査 不 可 能 ナ リ	ベ ン ガ ル 海 ニ 於 テ 行 動 中 ナ ル モ ナ ン シ ー 、 モ ラー 撃 沈 地 點 ヨ リ 甚 シ ク 離 隔 ス	中 部 印 度 洋 ニ 於 テ 行 動 中。 詳 細 不 明 ロー ー 一 〇 號 ハ 一 九 四 四 年 三 月 沈 没 確 認 セ ラ ル
タ メ ソ レ 以 上 ノ 調 査 不 可 能 ナ リ	チ ザ ラ ツ ク 撃 沈 時 イ 二 七 號 、 イ 一 六 六 號 行 動 シ ア リ タ ル モ ノ ト 思 料 セ ラ ル ル モ 乗 組 員 全 員 死 亡 ノ タ メ ソ レ 以 上 ノ 調 査 不 可 能 ナ リ	ビ ナ ン	同 上

イ 162 號	イ 37 號	イ 27 號	イ 26 號	イ 8 號	場所	日時	被撃沈 船名
ピ ナ ン	チヤゴス西方ニ於テ行動中ナル モチザラツク撃沈地點ヨリ甚シ ク離隔ス	詳細不明	マルヂイブ諸島周邊地區ニ行動 中ナルモリチャード、ハーヴェ ー撃沈地點ヨリ甚シク離隔ス	オーストラリアヤセイロン中間ヲ 行動中ナルモリチャード、ハー ヴェー撃沈地點ヨリ甚シク離隔 ス		一九四四年三月二十九日 北緯十六度四〇分 東經六四度三〇分	リチャード、ハーヴェー
日本本土 一九四四年四月初期本國ニ歸還	ピナン 一九四四年四月二十七日爆雷ニ 依リ蒙リタル損害ノタメ修理中		日本本土 一九四四年五月前半 本國ニ歸還	ピ ナ ン		一九四四年七月二日 南緯三〇度〇分 東經七四度三〇分	ジャン、ニコレット
							スコチア

撃沈日時及場所不明ノタメ何
等ノ推測ヲモナシ得ズ

備考。

一、船舶撃沈ノ時日及場所ハ戦争中關係國政府ヨリ出サレタル抗議書ニ基イテ
 定メラレタリ
 ニ判定ニ到ル各欄ノ作製ニハ生殘乗組員ノ記憶ヲソノ基礎トシテ使用セリ

判定	ロ 111 號	ロ 110 號	イ 166 號	イ 165 號
リチャード、ハーヴェー撃沈時 イ二七號、イ一六六號行動中ナ リシモノト思料セラルルモ乗組 員全員死亡ノタメソレ以上ノ調 査不可能ナリ	ビ ナ ン		中部印度洋ニ於テ行動中。 詳細不明	シンガポール
ジャン、ニコレット撃沈時イ一 六六號行動中ナリシモノト思料 セラルルモ乗組員死亡ノタメソ レ以上ノ調査不可能ナリ。他潛 水艦ハ關係ナシ	日本本土 一九四四年三月末本國ニ歸還		同 上	北西オーストラリアヨリ、スラバ ヤニ向ケ歸航中ナルモジャン、ニ コレット號撃沈地點ヨリ甚シク 離隔ス
撃沈日時及場所不明ノタメ何 等ノ推測ヲモナシ得ズ				

文書ノ出所竝ニ成立ニ關スル證明書

(三號)

自分大石宗次ハ復員廳第二復員局連絡部部員ノ職ニ居ル者ナル處、茲ニ添附セラレタル一〇頁ヨリ成ル印度洋ニ於テ汽船ヲ擧沈セシ帝國潜水艦ニ關スル件回答ト題スル書類ハ日本政府(復員廳第二復員局連絡部)ノ保管ニ係ル公文書ノ正確ニシテ眞實ナル寫シナルコトヲ證明ス

昭和二十二年五月二十六日 於東京

大石宗次

右署名捺印ハ自分ノ面前ニ於テ爲サレタリ

同日於同所

立會人 稻川龍雄

文書ノ出所竝ニ成立ニ關スル證明書

(三號)

自分大石宗次ハ復員廳第二復員局連絡部部員ノ職ニ居ル者ナル處、茲ニ添附セラレタル一〇頁ヨリ成ル印度洋ニ於テ汽船ヲ擧沈セシ帝國潜水艦ニ關スル件回答ト題スル書類ハ日本政府(復員廳第二復員局連絡部)ノ保管ニ係ル公文書ノ正確ニシテ眞實ナル寫シナルコトヲ證明ス

昭和二十二年五月二十六日 於東京

大石宗次

右署名捺印ハ自分ノ面前ニ於テ爲サレタリ

同日於同所

立會人 稻川龍雄